

高度教養教育に関するアンケート結果

大阪大学コミュニケーションデザイン・センター
小林 傳司

近年の報告書の動向

政府関連の各種報告書

- 中教審答申

- 新しい時代における教養教育の在り方について(平成14年2月21日)
- 我が国の高等教育の将来像(平成17年1月28日)
- 新時代の大学院教育―国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて―(平成17年9月5日)
- 学士課程教育の構築に向けて(平成20年3月25日)

- 教育再生会議(→教育再生懇談会)

- 社会総がかりで教育再生を・最終報告～教育再生の実効性の担保のために～(平成20年1月31日)

- 経済産業省

- 社会人基礎力に関する研究会「中間取りまとめ」(平成18年1月20日)
(前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力)

近年の教養のイメージ

- ・コミュニケーション
(アカデミックライティング・プレゼンテーション・社交性／日本語・外国語)
- ・批判的思考
(問題発見・分析・論理的推論)
- ・市民性
(社会リテラシー・倫理に関する原則論的思考・市民としての社会的責任・研究倫理・学問と社会・大学と社会)
- ・数理的思考
(統計スキル・データ処理)
- ・調査研究リテラシー
(情報収集能力・情報技術活用・学習方法の学習・・・)
- ・美的感受性
(芸術を理解する・擁護する能力)
- ・自己マネジメント力
(生涯学習力・チームワーク・主体性・課題発見力・創造力)
- ・幅広い知識

高度教養教育に関するアンケート

- 実施期間：2008年6月から9月

- 実施対象

大阪大学の学部3・4年生／大学院生(博士課程前期)／教員

- 回答数

学部生(974名／約8000名)

大学院生(707名／約4800名)

教員(370名／約3000名)

回答者属性と比率

所属	学部生		院生		教員		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
文学部・文学研究科	76	7.8%	33	4.7%	21	5.6%	130	6.3%
人間科学部・人間科学研究科	60	6.2%	38	5.4%	45	12.1%	143	7.0%
外国語学部	41	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	41	2.0%
法学部・法学研究科	54	5.5%	8	1.1%	13	3.5%	75	3.7%
経済学部・経済学研究科	118	12.1%	46	6.5%	13	3.5%	177	8.6%
理学部・理学研究科	86	8.8%	68	9.6%	54	14.5%	208	10.1%
医学部医学科・医学系研究科（保健学専攻除）	15	1.5%	8	1.1%	16	4.3%	39	1.9%
医学部保健学科・医学系研究科保健学専攻	69	7.1%	30	4.2%	11	3.0%	110	5.4%
歯学部・歯学研究科	3	0.3%	1	0.1%	8	2.2%	12	0.6%
薬学部・薬学研究科	11	1.1%	22	3.1%	18	4.8%	51	2.5%
工学部・工学研究科	258	26.5%	176	24.9%	24	6.5%	458	22.3%
基礎工学部・基礎工学研究科	180	18.5%	67	9.5%	14	3.8%	261	12.7%
言語文化研究科	2	0.2%	37	5.2%	20	5.4%	59	2.9%
国際公共政策研究科	0	0.0%	24	3.4%	7	1.9%	31	1.5%
情報科学研究科	2	0.2%	48	6.8%	24	6.5%	74	3.6%
生命機能研究科	0	0.0%	23	3.3%	8	2.2%	31	1.5%
高等司法研究科	0	0.0%	78	11.0%	5	1.3%	83	4.0%
附置研究所	0	0.0%	0	0.0%	12	3.2%	12	0.6%
学内共同教育研究施設	0	0.0%	0	0.0%	31	8.3%	31	1.5%
全国共同利用施設	0	0.0%	0	0.0%	6	1.6%	6	0.3%
その他	0	0.0%	0	0.0%	22	5.9%	22	1.1%
合計	973		707		372		2052	

高度教養教育の定義

「高度教養教育」とは、

「一定の専門的知識を身につけ、社会にまもなく出て行く学生に対して、専門教育以外に必要とされる知識や能力を与える教育」

という意味です。

したがって、全学部の後期(3年次、4年次)及び大学院の全研究科の前期課程の学生を対象とし、全学共通科目として提供することを想定しています。

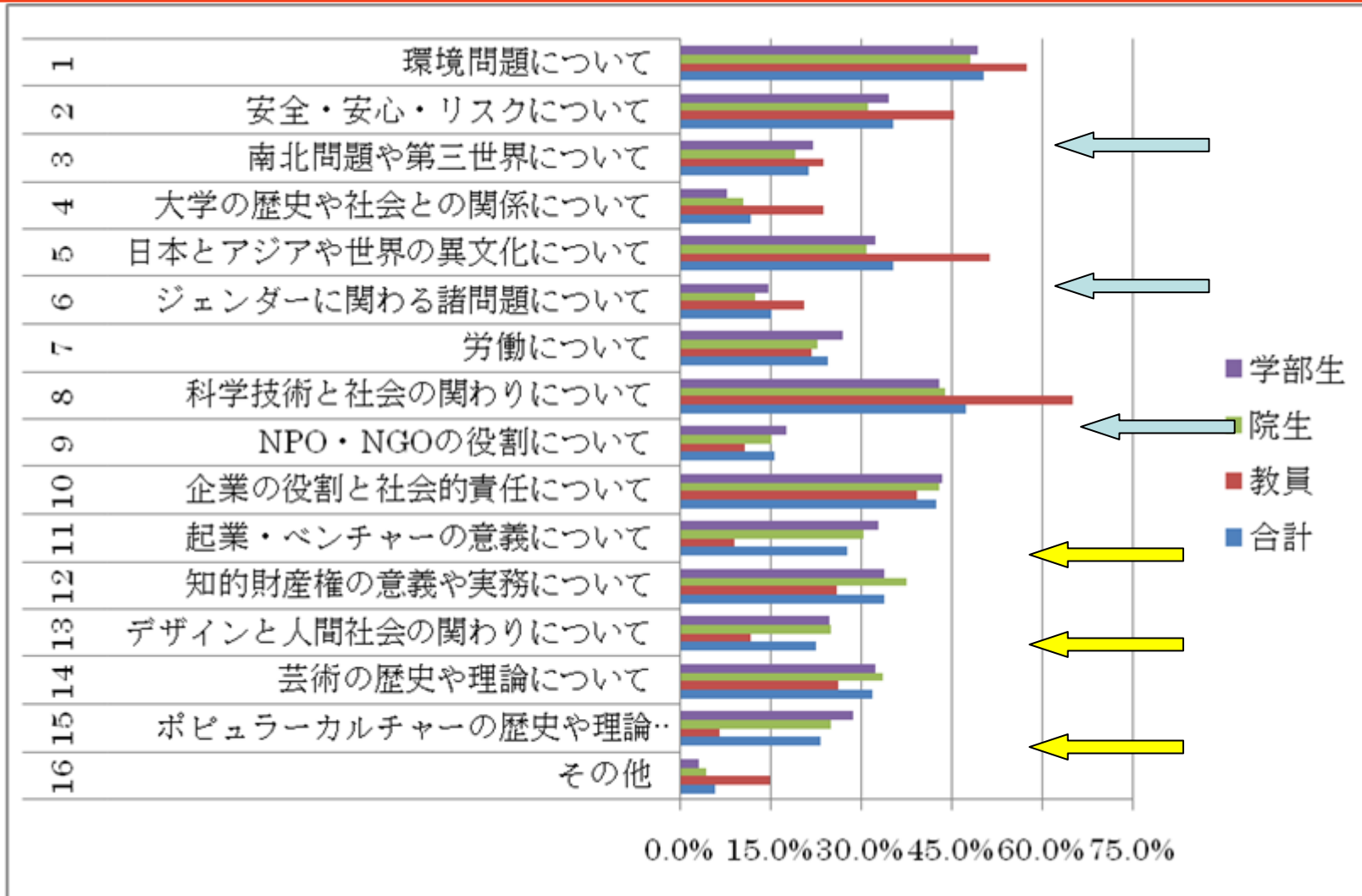
知識系(リベラルアーツ的なものも含む)

能力系(コンピテンス)

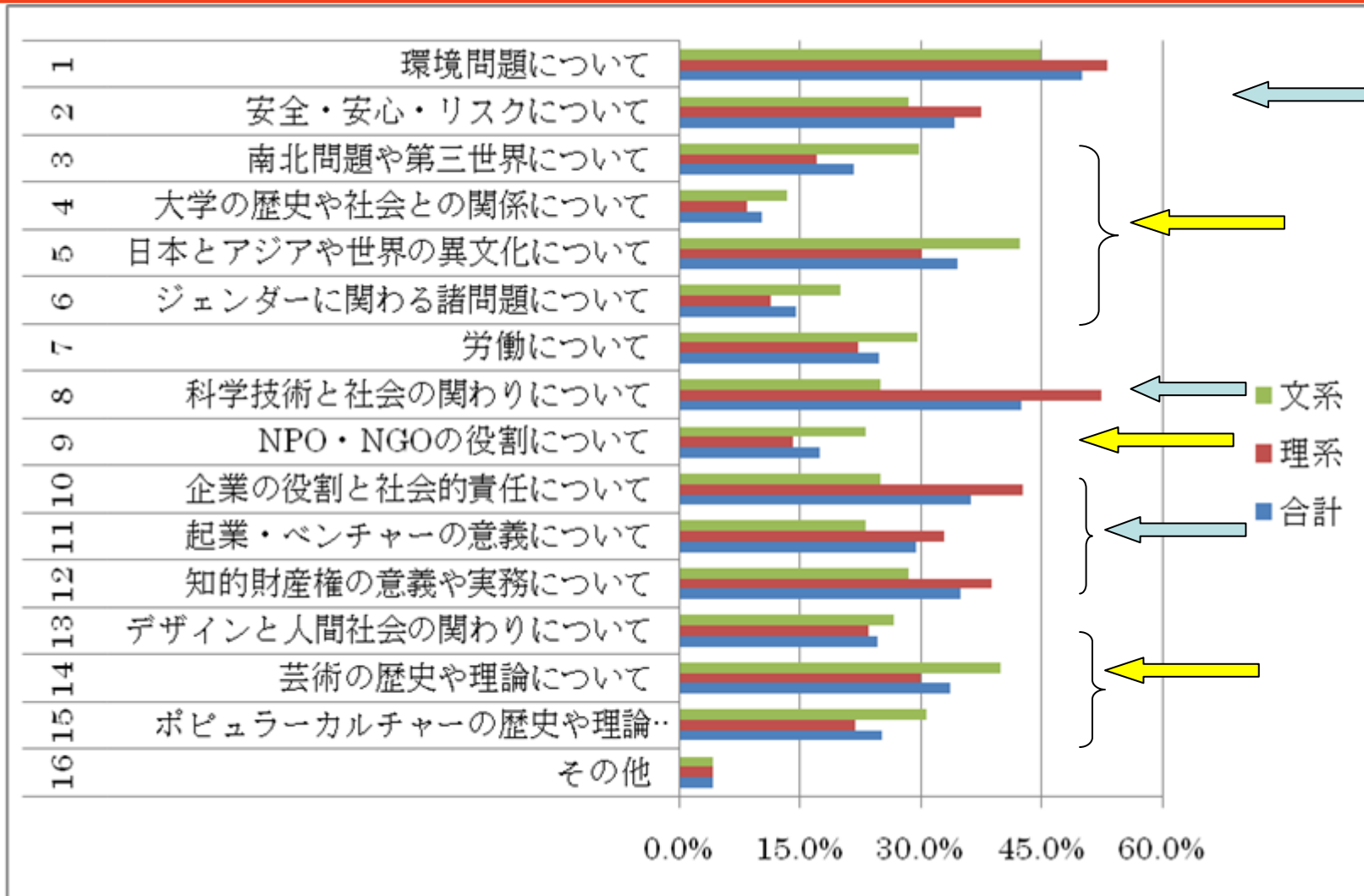
問1、「高度教養教育において、以下の「知識と理解」の中で、あなたが学びたい(学部生・院生)／学生に学ばせたい(教員)ものを選んでください」(5つまで選択)＜知識と理解系項目＞

-
- 1 環境問題について
 - 2 安全・安心・リスクについて
 - 3 南北問題や第三世界について
 - 4 大学の歴史や社会との関係について
 - 5 日本とアジアや世界の異文化について
 - 6 ジェンダーに関わる諸問題について
 - 7 労働について
 - 8 科学技術と社会の関わりについて
 - 9 NPO・NGOの役割について
 - 10 企業の役割と社会的責任について
 - 11 起業・ベンチャーの意義について
 - 12 知的財産権の意義や実務について
 - 13 デザインと人間社会の関わりについて
 - 14 芸術の歴史や理論について
 - 15 ポピュラーカルチャーの歴史や理論について
 - 16 その他

問1、「高度教養教育において、以下の「知識と理解」の中で、あなたが学びたい(学部生・院生)／学生に学ばせたい(教員)ものを選んでください」(5つまで選択) **<教員と学生の比較>**



問1、「高度教養教育において、以下の「知識と理解」の中で、あなたが学びたい(学部生・院生)／学生に学ばせたい(教員)ものを選んでください」(5つまで選択) **<文系と理系の比較>**



結果 <「知識と理解」系項目>

全体として

- メディアの影響？<環境、科学技術と社会、企業の役割、知財、起業>
- 意外と低いのが<大学の歴史、ジェンダー、労働、NPO>
- 学部生と院生の差は少ない

教員と学部生・院生

- 学びたいものと学ばせたいものの差
 - 教員<安全・安心、大学の歴史、アジア異文化、科学技術と社会>
 - 学部生・院生<起業・ベンチャー、デザイン、ポピュラーカルチャー>

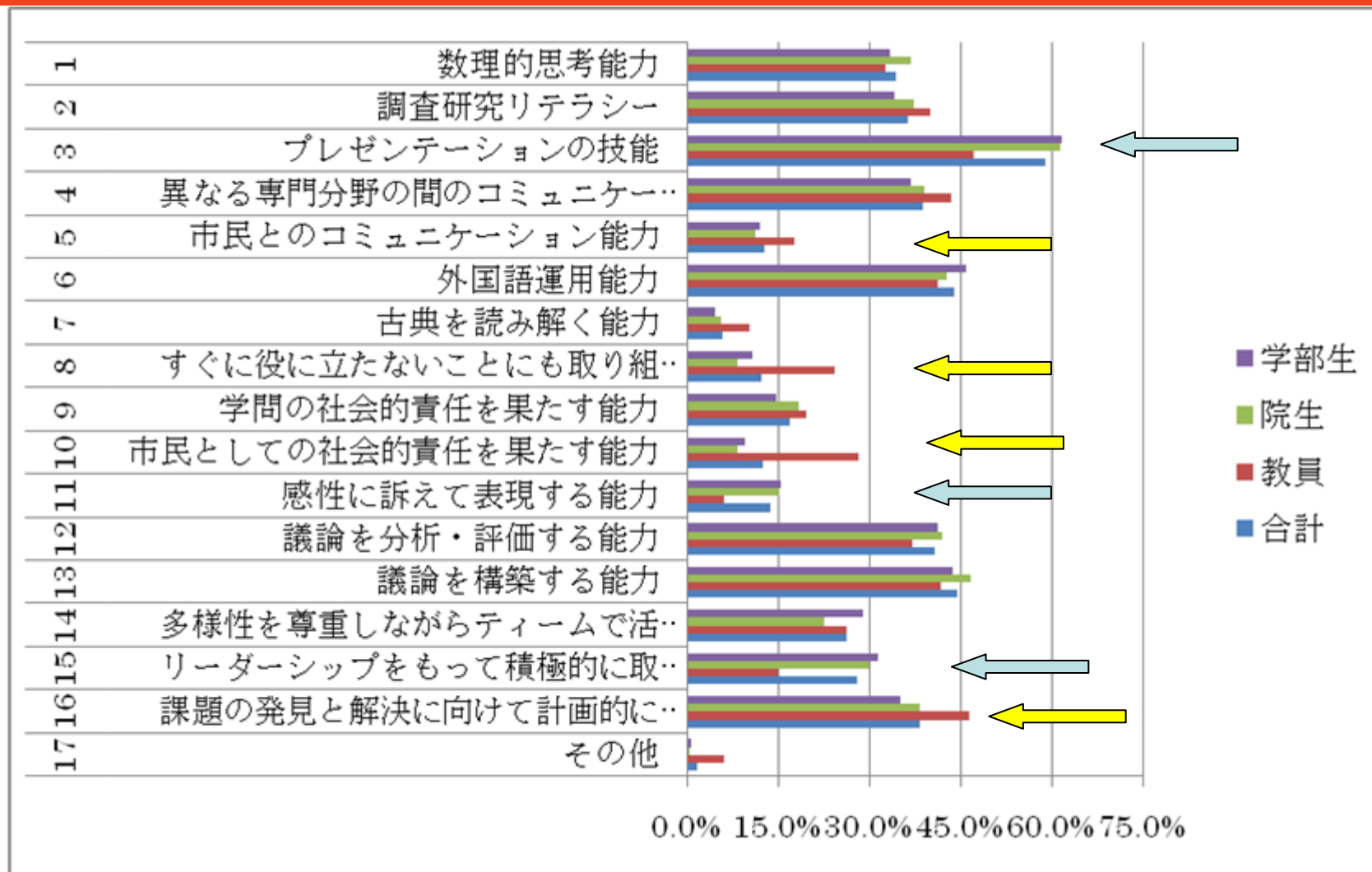
理系と文系

- テーマの性格とほぼ対応
- 企業の役割、起業・ベンチャー、知財は理系が関心

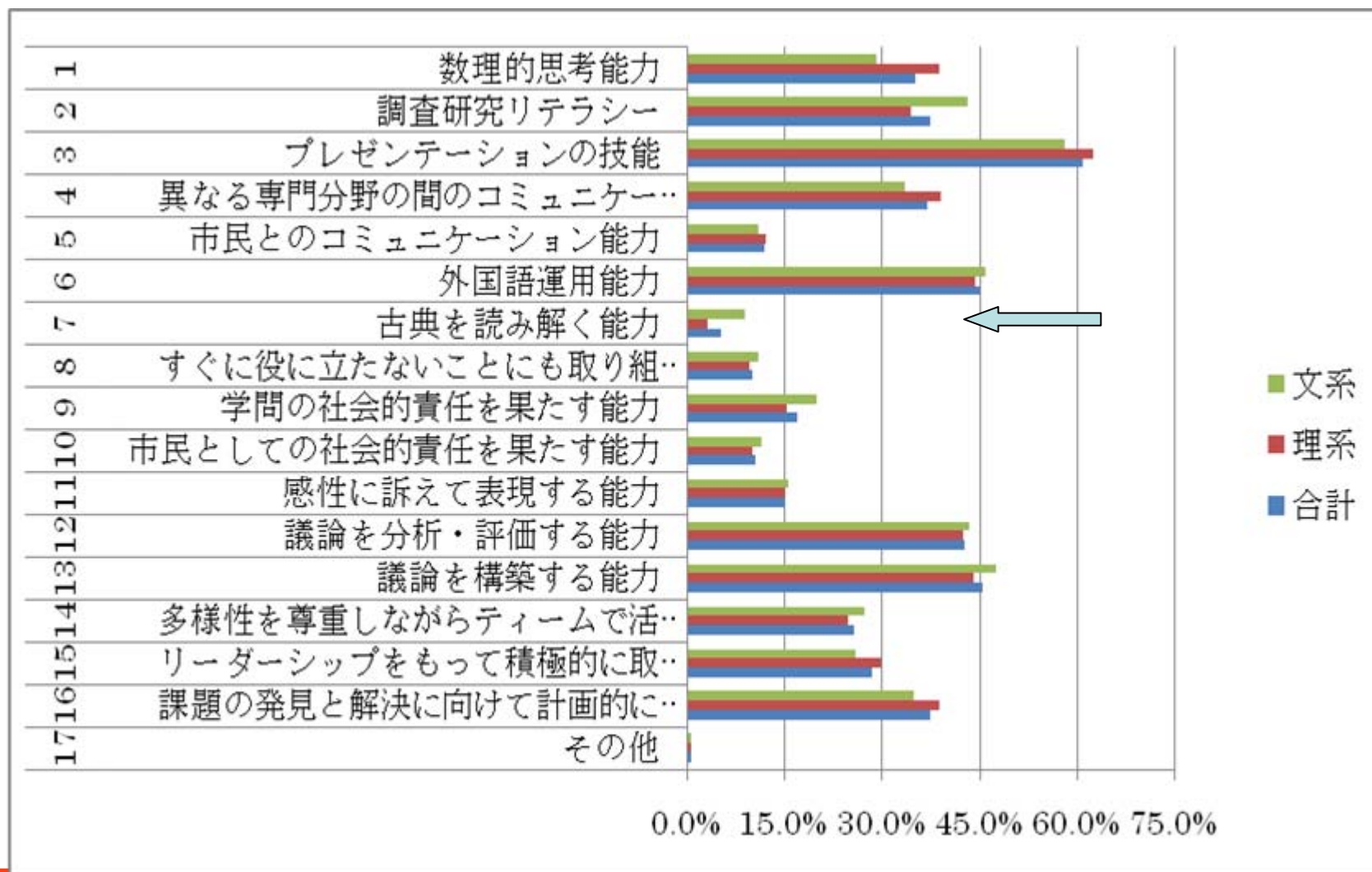
問3、「高度教養教育において、あなたが身に付けたい(学部生・院生)／学生が身に付けるべきだと思う(教員)能力や技能を選んでください。」(5つまで選択) <能力系項目>

- 1 数理的思考能力
- 2 調査研究リテラシー
- 3 プレゼンテーションの技能
- 4 異なる専門分野の間のコミュニケーション能力
- 5 市民とのコミュニケーション能力
- 6 外国語運用能力
- 7 古典を読み解く能力
- 8 すぐに役に立たないことにも取り組む能力
- 9 学問の社会的責任を果たす能力
- 10 市民としての社会的責任を果たす能力
- 11 感性に訴えて表現する能力
- 12 議論を分析・評価する能力
- 13 議論を構築する能力
- 14 多様性を尊重しながらチームで活動する能力
- 15 リーダーシップをもって積極的に取り組む能力
- 16 課題の発見と解決に向けて計画的に取り組む能力
- 17 その他

問3、「高度教養教育において、あなたが身に付けたい(学部生・院生)／学生が身に付けるべきだと思う(教員)能力や技能を選んでください。」(5つまで選択) **<教員と学生の比較>**



問3、「高度教養教育において、あなたが身に付けたい(学部生・院生)／学生が身に付けるべきだと思う(教員)能力や技能を選んでください。」(5つまで選択) **<文系と理系の比較>**



結果 <「能力」系項目>

全体として

- 実用主義的<プレゼンテーション、外国語、議論構築・・・>
- 市民としての社会的責任、学問の社会的責任、古典、役に立たないこと、感性 等には反応しない

教員と学部生・院生

- 市民、古典、役に立たないといった事柄に教員は反応
- 感性、リーダーシップに教員は反応しない
- 「課題の発見と解決に向けて計画的に取り組む能力」は教員の選択順位が第二位

文系と理系

- 顕著な差はない

学生と教員の回答上位項目

	学部生・院生の回答上位項目
1	プレゼンテーションの技能
2	外国語運用能力
3	議論を構築する能力
4	議論を分析・評価する能力
5	異なる専門分野の間のコミュニケーション能力
6	課題の発見と解決に向けて計画的に取り組む能力

	教員の回答上位項目
1	プレゼンテーションの技能
2	課題の発見と解決に向けて計画的に取り組む能力
3	異なる専門分野の間のコミュニケーション能力
4	議論を構築する能力
5	外国語運用能力
6	調査研究リテラシー

これからの課題

TeachingからLearningへ

- 授業形態の多様化
- Competence系科目とLiberal Arts系科目
- 科目の再編および新設

アンケート結果の生かし方（顧客対応だけではない）

- 市民性、21世紀型市民社会対応
- 大学院教育の複線化？あるいは再編
- 1・2年次教養教育との接続
- 高年次学生や院生が1・2年次教養教育を学べる仕組み

大学って？

デレク・ボック(元ハーバード大学長)

大学の重要な役割の一つ: 社会の偵察者

- 様々な知識・情報が集まる、過去からのストックもある
- 頭脳労働に集中できる空間と時間の確保
- 営利企業等の個別利害を超えた価値中立

しかし

- レイチェル・カーソン
- ラルフ・ネーダー
- マイケル・ハリントン
- ベティ・フリーダン

みんな大学の外の人

しかし

大学の外の社会の動きに目を凝らし、それを学問化する機能は大事では